



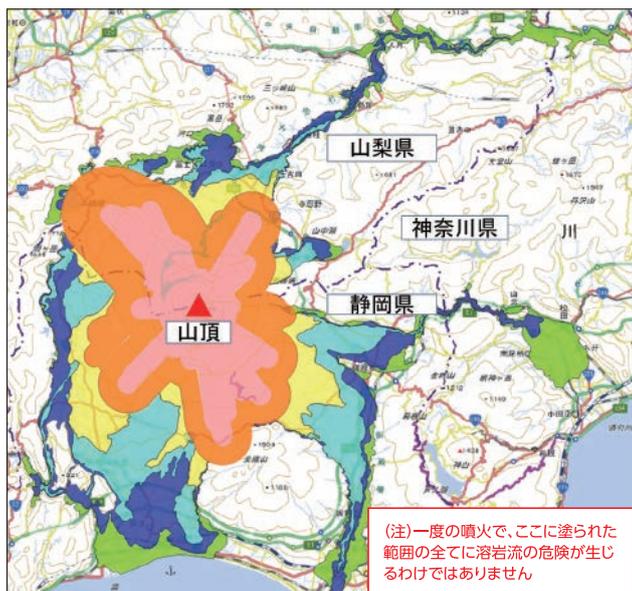
富士山噴火に備え、 災害時の医療提供体制を確保へ

富士山が噴火した場合、規模によっては火山灰が10センチ以上も積もり、車両が移動できなくなるだけでなく、水道や電気などライフラインにも支障が出ると想定されます。

しかしながら、これまでの災害時医療の訓練では、地震や津波などを想定したものが多く、施設整備への支援も、病院の耐震工事や浸水対策にとどまっていました。

そこで、公明党県議団は代表質問で、富士山噴火に備え、災害時の医療提供体制の確保のために、どのように取り組んでいくのか質問しました。

■富士山ハザードマップ(神奈川県は溶岩流到達の可能性があります)



- 噴火する可能性のある範囲 (第1次避難エリア)
- 火砕流等、大きな噴石、融雪型火山泥流 (第2次避難エリア)
- 溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲 (第3次避難エリア)
- 溶岩流が3時間～24時間で到達する可能性のある範囲 (第4次避難エリア)
- 溶岩流が24時間～7日間で到達する可能性のある範囲 (第5次避難エリア)
- 溶岩流が7日間～57日間で到達する可能性のある範囲 (第6次避難エリア)

- 相模原市 (第6次避難エリア)
- 小田原市 (第6次避難エリア)
- 南足柄市 (第5次、第6次避難エリア)
- 大井町 (第6次避難エリア)
- 松田町 (第6次避難エリア)
- 山北町 (第5次、第6次避難エリア)
- 開成町 (第5次、第6次避難エリア)

神奈川県内は、
第5次、6次避難エリアのみ
(溶岩流到達時間は、噴火開始
後24時間以上)

出典：富士山火山防災マップ(神奈川県版)

DMATの初訓練を実施

黒岩祐治知事は、11月に県庁で行う関東ブロックDMAT(災害派遣医療チーム)訓練において、初めて富士山の噴火による火山灰の被害を想定し、訓練を行うと答弁。

訓練には、県内35の災害拠点病院を始め、1都6県のDMAT約100チームの参加を予定しており、噴火の際の医療救護活動について、現場の意見を聞きながら実効性のあるものにしたいと述べました。

さらには、災害拠点病院の設備整備については、火山灰の侵入を防ぐフィルター等の整備など、火山噴火への備えも進めていくとしています。